

2023年度 事業報告書

(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

I. 事業の概要

II. 処務の概要

I. 事業の概要

世界的に猛威を振るった新型コロナウイルス感染症が落ち着きを見せ、2023 年 5 月には感染法上の分類が 5 類に変更されると、豊田理化学研究所の事業活動も with コロナが定着し、オンライン形式を併用しつつ、対面を中心とした活動へと移行しました。

「研究事業」では、フェロー研究については、新たなフェローの採用はなく、それぞれがより充実した研究環境で研究推進できるように、フェロー 3 名は引き続き大学との共同研究により大学を拠点とし、2 名のフェローが豊田理研の研究棟で研究活動を行いました。フェロー研究報告会は、少人数の現地聴講とオンライン配信を組み合わせたハイブリッド方式で、2 回(10 月、2 月)開催しました。豊田理研懇話会は、ハイブリッド方式で 3 回(8 月、12 月、3 月)実施しました。また、豊田理研ワークショップは対面形式で 2 回(9 月、3 月)実施することができました。

「助成事業」では、前年度から強化した若手育成制度が実行に移されました。「ライジングフェロー制度」はスカラー制度開始時(2011 年度)からこれまでのスカラーで構成される「スカラーコミュニティ」から選ばれた新進気鋭の研究者を 5 年間強力に支援する制度です。2023 年度は初めてのライジングフェローとして 3 名が選ばれ、2024 年度から支援を開始します。

「スカラー共同研究」は「異分野若手交流会」参加者間の交流から生まれる共同研究で、新分野創生とプロジェクトリーダ育成を目指し、選抜・再編を経て最長 6 年間支援を継続する制度です。2023 年度は、Phase1 として 10 チームが活動し、その中から Phase2 へ進む 3 チームを選抜しました。

「海外大学院進学支援制度」は 5 年目を迎え、「Toyota Riken Overseas Predoctoral Fellow(OSPDF)」の支援対象者として新たに進学コース 5 名、準備コース 1 名を採択しました。また、留学していた 1 名が Ph.D.を取得しました。

運営面では、広報活動として財団の 1 年間の活動をまとめたアニュアルレポートを今年も発行いたしました。写真に加え、動画も多く取り入れて財団の活動が分かりやすくお伝えできるようにしました。今後も毎年発行していく予定です。

財政面では、トヨタグループ各社の堅調な業績のもと、2023 年度の豊田理研の経常収益は過去最高になりました。この収益の中から通常の事業支出に加え、将来の建物大規模修繕に備えた資産取得資金の積立てを行いました。また、海外大学院進学支援制度の拡大を見込み、海外大学院進学支援制度積立基金として海外金融資産を取得しました。

以下、各事業および 2023 年度に企画・推進した取り組みについて説明します。

1. 研究事業

1-1 フェロー事業

(1) フェローと研究テーマ

2023 年度はフェロー5 名、客員フェロー1 名の計 6 名で研究活動を実施しました。

表 1、表 2 に各フェローの研究テーマを示します。

研究内容および成果の詳細は、豊田理研ホームページで公開の「豊田研究報告 No.77」に記載の通りです。

表 1. フェローと研究テーマ

在籍	氏 名	研究テーマ
4 年 目	伊藤 敏幸（鳥取大学 名誉教授）	イオン液体機能材料の創成
	松下 裕秀（名古屋大学 名誉教授）	ブロック共重合体新分子設計によるメソスケール 周期構造・準周期構造の構築
3 年 目	大谷 博司（東北大学 名誉教授）*	第一原理計算に基づく理論状態図の構築と 準安定物質創成に関する研究
	田中 秀樹（岡山大学 名誉教授）*	柔軟な水素結合による水と氷の多様性の発現機構
2 年 目	前野 悦輝（京都大学 名誉教授）*	非従来型超伝導物質の研究

* 主な研究実施場所が大学であるフェロー

表 2. 客員フェローと研究テーマ

在籍	氏名	研究テーマ
2 年 目	瀧川 仁（東京大学 名誉教授）	角度分解 NMR による電子系の隠れた秩序の検証

(2) 科研費

フェローは、表 3 に示す通り、研究にあたり日本学術振興機構の科学研究費助成事業(科研費)の助成または補助を受けております。

表 3. 2023 年度に助成・補助を受けた科学研究助成事業

研究種目	研究代表者	研究課題
基盤研究C	伊藤 俊幸	イオン液体の調湿機構解明による省エネ・イオン液体調湿空調機の開発
基盤研究C	松下 裕秀	4成分5元ブロック共重合体による新規タイリング構造の構築
基盤研究B	大谷 博司	熱力学的準安定性の制御による新物質合成に関する研究
基盤研究B	前野 悦輝	Sr ₂ RuO ₄ での「非従来型」を超える超伝導状態の探求

科研費の助成、補助を受けるにあたっては、研究不正を防止する体制を整備し、フェローをはじめとする職員に対する啓発、教育を行い、不正防止に努めています。

2023 年度に行った研究不正防止研修会を表 4 に示します。

表 4. 研究不正防止に関する研修会・説明会

実施日時	名称等	内容
2023 年 8 月 3 日(木)	研究不正防止講演会 /科学研究費助成事業 公募説明会 場所: 豊田理研会議室 説明者: 事務局長 小池洋二郎 事務局 浜辺 宏子 参加者: 研究者 5 名、事務局員 9 名	1. 研究不正防止に向けた研究倫理教育の普及・定着に向けた取り組みの説明・議論 (1) 研究不正に関する最近の事例紹介 (2) 日本学術振興会の倫理教育研修映像教材の視聴および討論 2. 令和 6 年度の公募の説明

(3) フェロー研究報告会

フェローの研究成果を発表、議論するフェロー研究報告会を2回実施しました。表5に各報告会の発表テーマ、発表者等の詳細を示します。

いずれも井口ホールでの少人数の現地聴講にオンライン配信を組み合わせたハイブリッド方式で行いました。

表 5. フェロー研究報告会

第 34 回フェロー研究報告会			聴講者	122 名
日 時	2023 年 10 月 27 日 (金)	形 式	豊田理化学研究所井口ホールで講演、オンライン配信	
発表テーマ(発表者):				
① 第一原理計算に基づく理論状態図の構築と準安定物質創成に関する研究			(大谷博司フェロー)	
② CH ₄ ハイドレートの CO ₂ への置換効率とエネルギー収支			(田中秀樹フェロー)	
③ 超伝導の未解決問題に挑む			(前野悦輝フェロー)	

第 35 回フェロー研究報告会			聴講者	123 名
日 時	2024 年 2 月 20 日 (火)	形 式	豊田理化学研究所井口ホールで講演、オンライン配信	
発表テーマ(発表者):				
① イオン液体の吸湿機構の解明			(伊藤敏幸フェロー)	
② 4 成分ブロック共重合体が織る 12 回対称準結晶タイリング構造とその性質			(松下祐秀フェロー)	

(4) 豊田理研ワークショップ

豊田理研が主催するワークショップは、フェローが中心となって、国内外の著名な研究者を招聘し、特定の研究分野に関して集中的に議論する場を提供することで、各研究分野の進展に寄与しようとするものです。

2023 年度は、表 6 に示す 2 件を実施しました。

表 6 豊田理研ワークショップ

通算回数	開催日	場 所	テーマ	主催者 (フェロー)	参加者
14 回	2023 年 9 月 25 日～ 9 月 26 日	豊田理化学研究所 井口洋夫記念ホール、 トヨタ産業技術記念館	Cutting Edge Research on the Use of Biocatalysts for SDGs	伊藤敏幸	85 名
15 回	2024 年 3 月 4 日 ～3 月 6 日	豊田理化学研究所 井口洋夫記念ホール、 トヨタ産業技術記念館	合金状態図研究の展望と挑戦	大谷博司	64 名

1-2 学術談話会

(1) 豊田理研懇話会

「最先端で活躍している著名な先生をお招きして、難しいことを、易しく」話していただくセミナー「豊田理研懇話会」は、研究事業の一環として年 3 回実施しています。

井口ホールでの現地聴講にオンライン配信を組み合わせたハイブリッド方式で開催しました。オンラインでは豊田理研関係者のみならず、近隣の大学、研究機関の方々にもご参加いただいて、活発な討議が行われています。2023 年度は 3 回開催し、2012 年度に開始以来、通算の開催回数は 33 回となりました。セミナー題目、講演者の一覧を表 7 に示します。

表 7. 2023 年度 豊田理研懇話会のテーマ

回	年月日	講演者	セミナー題目
1	2023 年 8 月 29 日	高エネルギー加速器研究機構(KEK)・ 量子場計測システム国際拠点(QUP) 拠点長 羽澄昌史 氏	宇宙と素粒子の根本法則を量子場計測の 「新しい眼」で探る 聴講者:179 名
2	2023 年 12 月 12 日	自然科学研究機構分子科学研究所 教授／研究主幹 大森賢治 氏	量子力学 100 年の謎と超高速量子コンピュ ータへの挑戦 聴講者:354 名
3	2024 年 3 月 13 日	名古屋大学未来材料・システム研究所 未来エレクトロニクス集積研究センター長・ 教授 天野 浩 氏	100%再生可能エネルギー社会実現までの 道筋と新半導体材料の役割 聴講者:386 名

(2) 物性談話会

名古屋大学と共催で、東海地方の物性物理学研究者の啓発を図る場として活動しています。2023年度は現地とオンライン形式とのハイブリッド形式で、表8に示す8回の談話会を開催しました。1963年に発足以来、通算の開催回数は437回となりました。

表 8. 2023 年度 物性談話会の活動

回	年月日	講演者	講演題目
1	2023 年 4 月 26 日	大阪大学 教授 桂木洋光 氏	固くて柔らかい粉体でつなぐ宇宙・地球・生物・ 物理 聴講:31 名
2	2023 年 6 月 5 日	早稲田大学 教授 溝川貴司 氏	放射光分光で探る遷移金属化合物の電子状態 聴講:30名
3	2023 年 6 月 6 日	東京大学 教授 有田亮太郎 氏	第一原理計算による磁気構造予測法の開発と応用 聴講:38 名
4	2023 年 7 月 7 日	理化学研究所放射光科学研 究センター 研究員 井上 伊知郎 氏	X 線自由電子レーザーを利用した構造解析法の 現在と未来 聴講:44名

5	2023 年 10 月 6 日	東北大学国際放射光イノベーション・スマート研究センター 教授 高橋幸生 氏	X 線タイコグラフィによるナノ構造可視化の新展開 聴講:55 名
6	2023 年 12 月 4 日	東京大学 教授 木村 剛 氏	新規なフェロイック秩序に起因する現象の研究 聴講:60 名
7	2023 年 12 月 7 日	芝浦工業大学 教授 山本文子 氏	高圧下物質探索の攻略法—柔らかいものを圧す— 聴講:45 名
8	2023 年 12 月 8 日	愛知工業大学 教授 佐藤憲昭 氏	準結晶の磁性と超伝導 聴講:72 名

(3) 分子科学フォーラム

分子科学の発展を希求する幅広い研究者に討論の場を提供する事を目的に、分子科学研究所と共催で開催しており、一般市民にも公開しています。2023年度は、表9に示す3回のフォーラムをオンライン形式で開催しました。1996年に発足以来、通算開催回数は138回となりました。

表 9. 2023 年度 分子科学フォーラムの活動

回	実施年月	講演者	講演テーマ
1	2023 年 6 月 2 日	東京大学 教授 竹内昌治 氏	Think Hybrid ～異分野融合で近づく SF の世界～
2	2023 年 10 月 20 日	分子科学研究所 准教授 瀬川泰知 氏	パズルのように分子を作る ～曲がった炭素分子の有機合成～
3	2023 年 12 月 15 日	東京大学 教授 理化学研究所 主任研究員 香取秀俊 氏	光格子時計が拓く新たな時空間計測

2. 助成事業

2-1 豊田理研スカラー

豊田理研スカラーは博士の学位を有し、所属大学の推薦を受けた優秀な若手教員の中から、研究課題が当所の設立趣旨、目指す方向と合致する方を選定し、研究費用の一部を助成する制度です。

(1) 2023 年度の採択者

2023 年度は、表 10 に記載の 44 名の研究者に対し、規定の研究助成金を支給し、研究推進を支援するとともに、助成金贈呈書を授与しました。研究は年初に策定した研究計画にそって実施されました。研究内容および成果は、豊田理研ホームページで公開の「豊田研究報告 No.77」に記載の通りです。2011 年度の制度発足以来、採択者合計は 401 名になりました。

表 10. 2023 年度豊田理研スカラーの所属と研究テーマ

No	大学名		氏名	職位	研究テーマ
1	北海道	工	米田 友貴	助教	純粋な反芳香族性を示す窒素架橋型環状 π 共役オリゴピリドンの創出
2			角田 毅	特任助教	リボソーム翻訳後修飾ペプチドにみられるD-アミノ酸の形成機構の解明
3		理	今枝 佳祐	助教	金ナノ粒子と分子の相互作用を利用した光アンテナ材料の開発
4			島尻 拓哉	特任助教	非芳香族/反芳香族スイッチングに基づく新奇応答系の構築
5	東北	工	青木 英恵	講師	ナノ磁石-セラミクス界面のトンネル伝導電子の束縛状態に基づく超広帯域電気・磁気・光学効果の発現と制御
6			岡谷 泰佑	助教	ワイヤグリッド偏光子付きマルチコア光ファイバを用いた超小型・高分解能ロータリエンコーダ
7			中野 貴文	助教	耐熱性と軟磁性を両立する磁気トンネル接合を用いた脳磁場センシング素子の開発
8			山本 俊介	助教	高分子電気化学トランジスタ素子の特性制御と神経模倣素子応用
9	筑波	計算科学	原田 隆平	准教授	タンパク質の基質特異性発現メカニズムを解明する分子シミュレーション手法の開発：新規基質の合理的デザイン実現にむけて
10			堀 優太	助教	理論化学による無水水素イオン伝導プロセス機構の解明および材料開発への理論提案

11		生命環境	木下 奈都子	助教	高分子フレキシブル薄膜による極薄電極の応用と蛍光イメージングとの組み合わせによる非侵襲的・リアルタイムな植物のストレス計測
12	東京	理	磯崎 瑛宏	特任准教授	量子化された細胞の性質を解明するための高機能マイクロカプセルの創出
13		物性研	鈴木 剛	助教	ねじれヘテロ2層遷移金属カルコゲナイド結晶における光機能性の研究
14	慶應義塾	理工	福井 有香	専任講師	ナノサイズの水滴を反応場としたグリーン微粒子作製技術の開発
15	早稲田	理工	高山 あかり	准教授	2次元ディラックノーダルライン物質の構造と電子状態および輸送特性の解明
16		総合研	杉山 夏緒里	次席研究員	ラマン分光法とリポミクス解析による大動脈瘤破裂予測因子の探索
17	東京医科歯科	生体材工	堀 武志	助教	食資源のサステナビリティを拓く高開口率足場シートを用いた3次元組織構築技術の開発
18	新潟	医歯学	鈴木 絢子	特任助教	足場材コラーゲン分子フッ素化により基底膜成分を付与した高機能化口腔粘膜インビトロモデルの開発
19	信州	繊維	根岸 淳	准教授	ヒト細胞とブタ細胞外マトリックスから成る小腸モデルの開発
20	名古屋	工	高橋 倫太郎	助教	シリカナノ粒子の多様な自己集合体を利用した高機能有機-無機ハイブリッド材料の創製
21			平井 大悟郎	准教授	巨大磁気抵抗効果を示す酸化物トポロジカル物質の開発
22			ゾウ シャオユン	特任助教	バイオインスパイアード多孔質アンカーを介したポリマー/金属間接合の構造最適化
23		医	佐藤 和秀	特任講師	量子ナノマテリアルとマイクロバブルによる近赤外応答性プローブ標的がん治療評価法の確立
24		素粒子研	風間 慎吾	准教授	暗黒物質検出器高感度化のためのハイブリッド光センサーの開発
25	名古屋工業	工	徳永 透子	助教	Fe-Ti共晶合金へのCo添加による新規軽量高強度材料の開発
26	名城	農	天野 健一	准教授	液体金属中における様々な二物体間の平均力ポテンシャルの研究
27	豊田工業	工	渡邊 保真	准教授	放電プラズマを利用した極超音速気流制御と燃焼を利用した能動的空力制御への応用
28	岐阜	工	盧 曉南	准教授	制約充足プログラミングと組合せテストを併用した離散最適化問題の求解手法とその応用

29	三重	工	田港 聡	助教	正極/固体電解質界面の構築による高電圧正極反応の制御
30			晝河 政希	助教	組織工学的な人工腱開発のための筋・腱および腱・骨段階構造モデルの作製
31	京都	工	メーナカ デゾイサ	講師	スマートフォニック結晶レーザー
32			大谷 俊介	助教	環状分子Pillar[n]areneを用いた多孔質性ネットワークポリマーの合成とフッ素化合物への吸着特性評価
33			玉井 康成	助教	光るプラスチック太陽電池の開発
34			三浦 理紗子	助教	腫瘍免疫環境を可視化する光音響応答性多糖ナノ粒子型免疫アジュバントの開発
35		理	山本 遥一	助教	極端紫外レーザー光電子分光による気液界面における物質の電子構造と電気二重層の形成の研究
36			唐島 秀太郎	特定助教	紫外線吸収によるC=C二重結合の超高速光異性化反応過程の解明
37		化学研	谷藤 一樹	助教	二酸化炭素資源化を目指した均一系金属-硫黄触媒の創出
38			行本 万里子	助教	高周期14族元素-炭素間三重化学種の創製と応用: 含高周期14族元素 π 結合と共役特性の解明
39		高等研	門田 健太郎	特定助教	金属-カルバメート骨格の結晶化を利用した低濃度CO ₂ 回収手法の開発
40	大阪	基礎工	石部 貴史	助教	原子濃度制御による高性能カルコゲナイド熱電薄膜の創製
41		情報科学	平井 健士	助教	3次元空間を飛び回るUAV同士の無線通信のための確率幾何を用いた通信性能解析と飛行高度の最適化
42	神戸	工	森田 健太	助教	電子顕微鏡で特定の細胞小器官を観察するための電子染色プローブ開発
43	九州	工	王 振英	助教	ペロブスカイト太陽電池の蒸着型製造における熱流体物理
44	熊本	先導機構	関根 良博	准教授	電子移動型金属錯体の創出と磁気電気物性制御

(2) 豊田理研異分野若手交流会

若手研究者の育成や連携の促進を狙いとして、「豊田理研スカラー」「特定課題研究代表者」を対象に、2016年度から「異分野若手交流会」を開催しています。2023 年度は8/7～8/8にミッドランドホールにて124名が参加し、4年ぶりに完全対面で実施しました。

さまざまな分野の研究者が集合し、異分野間の情報交換やネットワーク作りを支援し、新たな研究テーマ創出の機会を提供しました。今年度は、当年度採択スカラーに加え、過去スカラー採択者、特定課題研究代表者の参加を呼びかけ、年度を跨いだスカラー間の交流の充実を図りました。

(3) 豊田理研スカラー共同研究

この制度は「豊田理研異分野若手交流会」の場で、スカラー間で新たに生まれた「共同研究」に対して助成を行うもので、2016年度から始まりました。

2023年度は、スカラーコミュニティ(当年度スカラーおよび過去スカラー)の異分野若手交流会参加をきっかけに、参加者間での分野を超えた共同研究Phase1として10チームが活動しました。表12に、2023年度実施のPhase 1 10チームを示します。

Phase1の実施を経て、更に大きな進展が期待できるテーマについて、スカラー共同研究評価委員会による選考により、Phase2 へ進む 3 チームを選抜しました。表 13 に Phase2 3 チームを示します。Phase2 は、2024 年度より支援を開始します。

表 12. 2023 年度実施 豊田理研スカラー共同研究 (Phase1)

No	共同研究テーマ名	所属・氏名
1	酸化還元状態と共役したタンパク質の液-液相分離の解析と制御を可能にする分子ツールの開発	名古屋大学 教授 吉田紀生
		岐阜大学 教授 池田 将
		京都大学 教授 菅瀬謙治
2	化学気相蒸着法による強相関電子系 2 次元物質の基盤的合成技術の確立と創発機能デバイスの創出	東邦大学 講師 柳瀬 隆
		北海道大学 助教 福地 厚
		名古屋大学 助教 高牟礼光太郎
3	多次元脂質分布情報を活かす多変量解析	大阪大学 准教授 大塚洋一
		北海道大学 准教授 小山 聡
4	植物空腹・指令シグナル分子の機能解明と高機能性成長調整剤の開発	筑波大学 教授 重田照
		名古屋大学 特任講師 田畑 亮
5	光技術と微細加工技術の融合による生体分子反応ダイナミクス解析	豊橋技術科学大学 教授 永井萌土
		京都大学 助教 中曽根祐介

6	光照射による特定反応誘導可能な新規試験管内生命現象解析ツールの構築とその評価	九州大学 助教 河添好孝
		東京工業大学 助教 金森功吏
7	相変化材料を活用した高機能蓄熱装置の最適設計	早稲田大学 教授 竹澤晃弘
		名城大学 准教授 宮田喜久子
8	高ひずみ化合物の精密分子合成に基づくメカノクロミックポリマーの開発	九州大学 准教授 小野利和
		北海道大学 准教授 石垣侑祐
		北海道大学 助教 百合野大雅
9	再生医療を加速する細胞培養ツールの開発～ナノ細胞膜の編集・分析から細胞機能の制御～	大阪大学 教授 境 慎司
		三重大学 教授 湊元幹太
		大阪大学 准教授 岡本行広
10	液晶を用いたスピン機能開拓	大阪公立大学 教授 戸川欣彦
		大阪大学 准教授 内田幸明

表 13. 豊田理研スカラー共同研究 Phase2 進出チーム(*チームリーダー)

No.	共同研究テーマ名	所属・氏名
1	植物空腹・指令シグナル分子の機能解明と高機能性成長調整剤の開発	名古屋大学 特任講師 田畑 亮(*)
		筑波大学 教授 重田 育照
2	多次元脂質分布情報を活かす多変量解析	大阪大学 准教授 大塚 洋一(*)
		名古屋市立大学 教授 小山 聡
3	酸化還元状態と共役したタンパク質の液-液相分離の解析と制御を可能にする分子ツールの開発	京都大学 教授 菅瀬 謙治(*)
		名古屋大学 教授 吉田 紀生
		岐阜大学 教授 池田 将
		豊橋技術科学大学 教授 永井 萌土
		京都大学 助教 中曽根 祐介

2-2 新フェロー制度

2-2-1 ライジングフェロー

日本国内の大学に所属する教員で、科学技術の分野において世界をリードする研究者に対して、大型の研究助成を継続的に実施することにより、研究の更なる進展を加速し、学術の振興、発展、および人材育成に貢献するための支援制度です。

過去に豊田理研スカラー採択の実績がある者の中から、活発な研究活動を実施している新進気鋭の研究者に助成を行う事で、将来一流研究者としての活躍が期待される者を「ライジングフェロー」としてサポートしていきます。

募集は、2023年2月1日から行い、応募総数 66 名の中から表 15 の 3 名をフェロー選考委員会で決定し、2024 年 4 月から助成を開始します。

表 15. 2024 年度 ライジングフェロー

	氏名	研究テーマ
1	大野真之 (東北大学多元物質科学研究所准教授)	アニオンの複合化で拓く固体イオニクスのフロンティア
2	後藤佑樹 (京都大学大学院理学研究科化学専攻教授)	ハイブリッド擬天然物ペプチド戦略の推進
3	朴 昭映 (大阪大学免疫学フロンティア研究センター 特任准教授)	生体分子アンサンブルによる機能性核酸の開発と 創薬基盤プラットフォームの構築

2-2-2 シニアフェロー

世界トップレベルの業績をあげている定年を控えた一流研究者に助成を行う事で、所属する大学等を拠点に研究を継続していただき、当該分野の更なる進展が期待される者を「シニアフェロー」として支援する制度です。年間最大 5,000 万円・5 年間を助成します。

なお、シニアフェローの募集は、ライジングフェローの応募・採択状況により検討していきます。2023 年度の採択者はありません。

2-3 特定課題研究

2021 年より特定課題研究の募集を休止しています。

(2021 年 10 月 11 日 第 43 回理事会 承認済み)

2-4 海外大学院進学支援制度

科学技術の分野で、海外の大学院で博士号(Ph.D.)取得を目指す日本国籍の学生に対して、その留学を支援することにより、国際的に活躍できる人材の育成を図ることを目的に、2019年度に開始しました。

2023年3月～5月にインターネットを利用して公募を行いました。その結果、①海外大学院進学コースに22名、②海外大学院進学準備コースに2名の応募があり、若手人材育成選考委員会で書類選考、面接選考を行い、表16の通り、進学コース5名と準備コース1名を採択しました。

この制度からオックスフォード大学(英)へ留学していた早川知志さんが 2024 年春 Ph.D.を取得した、という嬉しいニュースが届きました。本制度 Ph.D. 取得第 1 号者です。今後の活躍を大いに期待します。

表 16. 海外大学院進学支援制度 海外大学院進学コース 2023 年採択者

氏名	笹木宏人
在籍大学	東京大学 理学部数学科
留学先	セントルイス・ワシントン大学 (USA)
留学開始	2024 年 9 月～

氏名	佐藤明日花
在籍大学	東京大学 化学生命工学専攻
留学先	カリフォルニア工科大学 分子生物学専攻 (USA)
留学開始	2023 年 8 月～

氏名	前田清洲
在籍大学	東京大学 学際情報学府
留学先	プリンストン大学 コンピュータサイエンス学科 (USA)
留学開始	2023 年 9 月～

氏名	蚊谷 光
在籍大学	京都大学 理学研究科
留学先	ジョージア工科大学 生物学科 (USA)
留学開始	2023 年 8 月～

氏名	堀内美佑
在籍大学	慶応義塾大学 環境情報学科
留学先	ペンシルベニア大学 プロダクトデザイン工学専攻 (USA)
留学開始	2023 年 8 月～

海外大学院進学準備コース 2023 年採択者

氏名	金澤貴弘
在籍大学	東京大学理学部物理学科
準備活動	スピーキング講座受講、現地大学の事前調査・訪問

また、制度2年の支援を終えた学生らは、現在も現地でPh.D.取得に向け留学中です。今後
に続く後進のメンター役や、将来の豊田理研のコミュニティづくりなどにも協力してもらうため、留
学支援終了後も追加支援を行っています。

3. 広報活動

3-1. 豊田研究報告の刊行（第 76 号）

2022 年度在籍のフェロー、客員フェローの研究報告に加え、豊田理研スカラー、スカラー共同研究の研究報告を発行しました。（2023 年 6 月）
詳細は、ホームページよりご高覧ください。

3-2. アニュアルレポートの発行

2022 年度の財団 1 年間の活動を掲載したアニュアルレポートを 2023 年 6 月に発行しました。
財団の取り組み、目指すものを分かり易く記録としてまとめました。

3-3. ホームページの維持、管理

財団設立趣意書、沿革、公開情報等をまとめた「財団概要」、事業内容の詳細を記述した「事業紹介」、フェローの研究内容・成果を掲載した「フェロー紹介」、公募に関する情報をお知らせする「募集情報」、財団のイベントなどをお知らせする「トピックス記事」等をタイムリーに入れ替え、常に新しい情報を提供いたします。

Ⅱ. 処務の概要

1. 役員に関する事項

(1) 理事・評議員改選、監事補欠選任

2023年6月20日付けで、理事・評議員が任期満了による改選で、全員が重任しました。

2023年6月20日付けで、山口千秋監事が辞任し、吉田守孝氏を補欠選任しました。

2024年3月8日付けで、奥平総一郎評議員が辞任しました。

(2) 代表理事就任

2023年6月30日付けで、豊田章男理事が代表理事、理事長へ就任しました。

2024年3月31日現在の役員は、別表1.「役員・評議員名簿」を参照。

2. 職員に関する事項

2024年3月31日現在の職員は、別表2.「研究職員名簿」、および別表3.「事務職員名簿」を参照。

3. 役員会に関する事項

表17に示すように、2023年度は、通常理事会2回、臨時理事会3回、および定時評議員会1回、臨時評議員会1回を開催いたしました。

表17 理事会、評議員会の開催状況

役員会	開催年月日	議案	結果
第50回 通常理事会	2023年 6月6日(火)	1)2022年度 事業報告書承認の件 2)2022年度 決算報告書承認の件 3)理事選任の件 4)評議員選任の件 5)監事の補欠選任の件 6)評価委員会運営規程制定の件 7)評価委員選任の件 8)第27回評議員会(書面審議)開催の件	承認 承認 承認 承認 承認 可決 可決 可決
第27回 定時評議員会 (書面審議)	2023年 6月20日(火)	1)2022年度 事業報告書の件 2)2022年度 決算報告書の件 3)理事選任の件 4)評議員選任の件 5)監事の補欠選任の件	可決 可決 可決 可決 可決
第51回 臨時理事会 (書面審議)	2023年 6月30日(金)	1)代表理事(理事長、所長)、業務執行理事(常務理事)選定の件 2)代表理事(所長)、業務執行理事(常務理事)の報酬額について	可決 可決

第 52 回 臨時理事会 (書面審議)	2023 年 8 月 21 日(月)	3)企画・運営委員 選任の件 4)ライジングフェロー候補者の件	可決 可決
第 53 回 臨時理事会 (書面審議)	2024 年 2 月 23 日(金)	1) 2023 年海外大学院進学支援候補者の件	可決
第 54 回 通常理事会	2024 年 3 月 8 日(金)	1) 第 28 回評議員会招集の件	可決
第 28 回 臨時評議員会	2024 年 3 月 8 日(金)	1) 2024 年度 事業計画書(案)の件 2) 2024 年度 収支予算書(案)の件 3)フェロー選考委員会委員選任の件 4) 海外大学院進学支援のための海外金融資産取得の件 5) 寄付の件	可決 可決 可決 承認
		1) 寄付の件 上記(1)～(4)報告	可決

4. 許可・認可・証明等に関する事項

該当事項無し

5. 契約に関する事項

- (1) 技術協力契約 株式会社豊田中央研究所(2023 年 4 月 1 日)
- (2) 監査契約 後藤公認会計士事務所(2023 年 4 月 1 日)
- (3) 出向社員の取扱に関する協定書 株式会社豊田中央研究所(2023 年 10 月 1 日)
- (4) 業務災害補償保険契約(2023 年 6 月 1 日)
- (5) 施設所有(管理)者賠償責任保険契約(研究棟、井口記念ホール) 三井住友海上火災保険株式会社 (2024 年 2 月 28 日)
- (6) 建物火災保険契約:長期一括 3 年(2024 年 2 月 29 日)
- (7) 業務委託契約 株式会社トヨタアカウンティングサービス(2023 年 4 月 1 日)
- (8) 警備業務請負契約 株式会社トヨタエンタプライズ(2023 年 4 月 1 日)
- (9) 法律顧問契約 西脇法律事務所(2023 年 6 月 1 日)
- (10) 共同研究変更契約 国立大学法人京都大学(2024 年 2 月 27 日)
- (11) 共同研究変更契約 国立大学法人東北大学(2024 年 2 月 1 日)
- (12) 共同研究変更契約 国立大学法人岡山大学(2024 年 2 月 27 日)

6. 主務官庁の指示に関する事項

該当事項無し

7. その他重要事項

該当事項無し

別表 1

役員・評議員名簿

(2024 年 3 月 31 日現在)

(理事の任期:2023 年 6 月 20 日～2025 年 6 月開催予定の定時評議員会終結の時)

	氏 名	現 職 等
理事長 (代表理事)	豊田章男	トヨタ自動車株式会社 代表取締役会長
所長 (代表理事)	玉尾皓平	京都大学 名誉教授 国立研究開発法人 理化学研究所 名誉研究員
常務理事 (業務執行理事)	菊池 昇	株式会社トヨタコンポン研究所 代表取締役所長
理 事	榊 裕之	国立大学法人奈良国立大学機構 理事長 豊田工業大学 名誉学長
	豊田幹司郎	株式会社アイシン 相談役
	上杉志成	京都大学化学研究所 教授
	唯 美津木	名古屋大学 物質科学国際研究センター教授
	長谷川真理子	独立行政法人 日本芸術文化振興会 理事長

(監事の任期:2020 年 6 月 22 日～2024 年 6 月開催予定の定時評議員会終結の時)

	氏 名	現 職 等
監 事	加藤伸一	トヨタ自動車株式会社 元副社長
	吉田守孝	株式会社アイシン 取締役社長

(評議員の任期:2023 年 6 月 20 日～2027 年 6 月開催予定の定時評議員会終結の時)

	氏 名	現 職 等
評議員	安形哲夫	株式会社ジェイテクト 元社長
	池渕浩介	トヨタ自動車株式会社 元副会長
	内山田竹志	トヨタ自動車株式会社 エグゼクティブフェロー
	大橋正昭	愛知製鋼株式会社 元会長
	加藤宣明	株式会社デンソー 元会長
	加留部 淳	豊田通商株式会社 シニアエグゼクティブアドバイザー
	張富士夫	トヨタ自動車株式会社 元名誉会長
	豊田周平	トヨタ紡織株式会社 取締役会長
	豊田鐵郎	株式会社豊田自動織機 取締役会長
	中西広吉	株式会社豊田中央研究所 取締役所長
	濱口道成	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 先進的研究開発研究センター センター長 国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST)顧問
	深谷紘一	株式会社デンソー 元会長
	増井敬二	トヨタ車体株式会社 取締役会長
	増田義彦	学校法人トヨタ学園 理事長
	宮崎直樹	トヨタ紡織株式会社 取締役副会長

別表 2

研究職員名簿

(2024 年 3 月 31 日現在)

資 格	氏 名	就 任 年 月	備 考
常勤フェロー	伊藤 敏幸	2020 年 4 月	常 勤
	松下 裕秀	2020 年 4 月	常 勤
	大谷 博司	2021 年 4 月	常 勤
	田中 秀樹	2021 年 4 月	常 勤
	前野 悦輝	2022 年 4 月	常 勤
客員フェロー	瀧川 仁	2022 年 4 月	委 任

別表 3

事務職員名簿

(2024 年 3 月 31 日現在)

所 属	氏 名	就任年月	担当業務(役職)
事 務 局	小池洋二郎	2021 年 7 月	事務全般(事務局長)
	鈴木 逸朗	2022 年 6 月	事務全般(主査)
	川口 俊哉	2024 年 1 月	事務全般(参与)
総務グループ	野口あゆみ	2008 年 4 月	一般事務(リーダー)
	浜辺 宏子	2014 年 7 月	一般事務
	加藤 美香	2017 年 4 月	一般事務
研究支援グループ	伊東 一彦	2018 年 4 月	テクニカルスタッフ
	太田 充彦	2020 年 10 月	テクニカルスタッフ
	郡司 覚	2021 年 8 月	テクニカルスタッフ

付属明細書について

2023 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2024 年 5 月
公益財団法人 豊田理化学研究所